

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	経営学 I		(NGB14K)
講義名 (コード)	経営学 I A		(NGB14KA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デジタル時代の企業経営を考察。マクロ視点で変化する社会と経営の存在意義、人間の役割を考える。
全体の内容と概要	ビジネスの視野を広げるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	WEB経営の全体像を理解できるようになる	経営学の視点からからWEBと経営、WEB×経営を考えてみる
2	Society5.0の社会について理解できるようになる	人工知能（AI）、ビッグデータ時代に起こることとは
3	不確実な時代に生きる術を考察できるようになる	価値観や消費の変化をとらえて企業成長のきっかけを掴む
4	世界のトレンドや変化を理解できる	世界経済の変遷、格差、先進国で始まる高齢化社会など、自国の課題を抽出する
5	世界の様々な社会問題を理解し、SDGsで問題解決ができる	自国の課題をリストアップし、SDGsで問題解決を図る
6	経営理念の意義を正しく理解できるようになる	ビジョンとミッションについて
7	経営理念について考えを深めることができるようになる	ケーススタディ
8	企業の目的を正しく理解できるようになる	企業の目的は売上が利益か。それとも別なものか
9	企業の目的を正しく理解できるようになる	ワークショップ
10	企業の仕組みを正しく理解できるようになる	企業が永続的に発展するために必要なものはなにか
11	企業の仕組みを正しく理解できるようになる	ワークショップ
12	ステークホルダー経営について理解ができる	企業は誰のものか？ 顧客・従業員・地域・周辺環境との調和を目指す
13	企業の社会的責任について考察ができるようになる	ケーススタディ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	プロジェクト演習 I		(NGB14M)
講義名 (コード)	プロジェクト演習 IA		(NGB14MA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グループ学習の目的を理解し、準備と段取りができ、解決案を自分なりに導けるようにする
全体の内容と概要	グループ学習にて、①課題設定 ②情報収集 ③分析と整理 ④まとめ の4つのステップを学ぶ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	プロジェクトについて理解ができる	プロジェクトとは？プロジェクト演習の狙いと流れ
3	グループ学習の狙い分かる	グループ学習の目的、準備、段取り
4	ワークショップについて理解ができる	ワークショップの狙いと流れ
5	ワークショップを実践してみる	ワークショップ
6	課題解決型学習について理解できる	課題解決するための様々なアプローチを知る
7	課題解決型学習ができる	ワークショップ
8	整理と分析について理解できる	情報の整理と分析方法
9	整理と分析ができる	ワークショップ
10	チームビルディングについて理解できる	チームビルディングとは、意義と進め方
11	チームビルディングができる	ワークショップ
12	プロジェクトの企画について理解できる	プロジェクトの企画化
13	プロジェクトの企画ができる	ワークショップ
14	まとめ	発表
15	まとめ	発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	簿記 I		(NGB140)
講義名 (コード)	簿記 I A		(NGB140A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	勤務歴: 東京コンピューター(株)、東京精電(株)	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	企業の取引を一定のルールにしたがって記録・計算・整理し報告書を作成する 複式簿記のシステムを学び日商簿記初級レベルの知識を身につける
全体の内容と概要	検定試験を目標に簿記の基礎知識 (科目・書式) を覚えていく 学期末に検定試験受験を目標にする
授業時間外の学修	日常会話では使わない簿記の用語をまず理解できるように、 身近なものに置きかえて覚えていきましょう
履修上の注意事項等	授業はテキストを中心に進めますが模擬試験プログラムで検定対策も行います

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	簿記のしくみと必要性を理解する	簿記の意味と目的 簿記の用語と勘定科目 資産・負債・資本・収益・費用の意味
2	貸借対照表・貸借対照表等式について理解する	貸借対照表とは何か・貸借対照表の計算
3	損益計算書・損益計算書等式について理解する	損益計算書とは何か・損益計算書の計算
4	仕訳の方法・意味を理解し勘定記入ができる	貸借対照表と損益計算書の関係 取引と勘定記入について 仕訳について
5	転記の方法・意味を理解し記入できる	転記について
6	仕訳と転記の問題が解ける	仕訳と転記（練習問題）
7	試算表の意味を理解して合計試算表を作成できる	合計試算表とは何か
8	試算表の意味を理解して残高試算表を作成できる	残高試算表とは何か
9	試算表の意味を理解して合計残高試算表を作成できる	合計残高試算表とは何か
10	すべての試算表を作成できる	試算表作成（練習問題）
11	復習	テスト前練習（仕訳→転記→合計試算表・残高試算表）
12	復習	テスト前練習（仕訳→転記→合計残高試算表）
13	復習	テスト前練習（仕訳→転記→すべての試算表）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	土日合格（うか）る日商簿記初級
参考文献・資料等	各問題集より練習問題・検定対策の模擬試験プログラムも活用します
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	観光ビジネス論 I		(NGB14Q)
講義名 (コード)	観光ビジネス論 I A		(NGB14QA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	森腰 淳	時間数	30
成績評価教員	森腰 淳	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本のホテル、旅行会社、交通機関の役割を自分の言葉で説明できる。 外国人観光客が喜ぶ「おもてなし」のサービスや旅行プランを提案できる。
全体の内容と概要	日本の観光業界の基礎知識と「おもてなし」のマナーを中心に学び、後期は観光地のマーケティングや最新のIT技術、持続可能な観光など、より実践的なマネジメントについて学ぶ。
授業時間外の学修	ニュースやSNSで、日本の観光地や新しいイベントに関する情報を週に1回はチェックする。 授業で学んだ専門用語を復習し、日常生活の中で見かける観光サービス（駅やホテルなど）を観察する。
履修上の注意事項等	遅刻をせず、毎回出席することが重要。また、授業中のグループワークや発表には積極的に参加する。 わからない言葉があるときは、そのままにせず、すぐに質問して解決するようにする。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の進め方と、観光の基本的な言葉の意味を理解できる	1年間のスケジュールを確認し、「観光」とは何かを学ぶ。
2	旅行会社がどのような仕事をしているか説明できる	ツアーの企画やチケットの手配など、旅行会社の役割を学ぶ。
3	ホテルと旅館の違いや、それぞれの特徴を説明できる	日本の旅館文化と、近代的なホテルのサービスを比較する。
4	観光における電車、飛行機、バスの役割を理解できる	新幹線やLCCなど、移動手段が観光に与える影響を学ぶ。
5	日本流の接客マナーの基本を身につけることができる	相手を思いやる「おもてなし」の考え方と、挨拶・作法を学ぶ。
6	日本の有名な自然観光地の魅力を紹介できる	四季の変化や国立公園など、日本の豊かな自然について学ぶ。
7	日本の伝統や食べ物が観光にどう役立つか説明できる	祭り、神社、和食など、日本文化の魅力を学ぶ。
8	観光客が来ると町がどう変わるか理解できる	観光によって地域にお金が入り、元気が出る仕組みを学ぶ。
9	外国人観光客が日本に何を期待しているか分析できる	日本に来る外国人の数や、人気のスポットについて学ぶ。
10	旅先での地震やトラブルへの対応方法を説明できる	観光客の安全を守るためのルールや、緊急時の対応を学ぶ。
11	観光客を案内する時に大切なポイントを理解できる	分かりやすい説明の仕方や、場を盛り上げる技術を学ぶ。
12	観光ビジネスに関わる基本的な法律を知ることができる	旅行業法など、観光に関わる仕事をする上で守るべき決まりを学ぶ。
13	前期で学んだ大切なポイントを整理できる	第1回から12回までの内容を振り返り、テストの準備をする。
14	テスト	テスト
15	フィードバック	個人面談実施。テストフィードバック。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	地図でよく分かる都道府県大百科 必要に応じて適宜コピー等配布
参考文献・資料等	地図でよく分かる都道府県大百科
備考	グループ学習が多いので積極的な参加が必要

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化理解 I		(NKT16K)
講義名 (コード)	異文化理解 I A		(NKT16KA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース/観光ホスピタリティコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グローバル化が進む今日の社会で、ダイバーシティを尊重し、国際理解を深める。
全体的内容と概要	異文化理解の概念や現存する問題などを紹介し、学生自ら考え、グループワーク、ディスカッション、などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解する	各自白い紙に絵や文字で自分を紹介するポスターを作成、自己紹介
2	異文化理解はなぜ必要か、異文化理解とは何かを理解できる	文化とは何か、文化による差異を理解する
3	それぞれの学生の国について、地理的な面から学ぶことができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う
7	イメージと固定概念について理解できる	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する
8	ステレオタイプが理解できる	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える
11	世界各地の価値観について理解する①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解する②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す
13	前期のまとめ	まとめ
14	まとめと解説	期末テスト発表
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特になし
参考文献・資料等	異文化理解入門その他
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスコンピューティング I		(NKT16M)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティング IF		(NKT16MF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし基本的なビジネス文書、プレゼンテーションを作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でPowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすること、日本語のパソコン、アプリケーションを使えるようになりましょう 自分のスマートフォンを使っても学習ができます
履修上の注意事項等	日本語のメニューを見て操作ができるようになりましょう 資格試験もあるので1年生のうちに基礎を身につけるようにしてください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを理解する	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作 タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	PowerPointの基礎を理解する	PowerPointの概要、起動、新規作成、画面構成確認、入力、保存
3	スライドのレイアウトの種類 オブジェクト操作を理解する	スライドの挿入、箇条書き、図形の挿入、表作成、図の挿入
4	スライド、挿入したオブジェクト の編集ができる	書式設定、箇条書きの変更、図形の変更、表の編集、図の編集
5	スライドショーの実行ができる 配布資料の印刷設定ができる	テーマ、アニメーション、スライドショー スライドの印刷（印刷設定、ヘッダー・フッターについて）
6	ブラッシュアップ機能が 操作できる	配色・テキストの書式設定の変更 スライドマスターを使ったテンプレートの変更方法
7	Excelのグラフを挿入して 編集できる	グラフや図形の挿入（Excelのグラフ挿入）
8	オブジェクトの挿入ができる	グラフや図形の挿入（図形・SmartArt・オンライン画像の挿入）
9	PowerPointにグラフを 挿入できる	PowerPointでグラフ作成 Excelとのちがいを確認、書式の設定
10	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
11	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
12	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
13	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2021 留学生のためのパソコン入門
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント、タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザイン I	(NKT160)
講義名 (コード)	キャリアデザイン I F	(NKT160F)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	石田 浩也	時間数 30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ（インターンシップ含む）
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢 ・基本的に授業の前半にインプット、後半は学生自身で調べたり考えたり、発表する時間を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができるようになる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介、キャリア面談表の記入
2	基本的なビジネスマナーを理解できるようになる	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できるようになる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】就活計画の検討と作成
4	キャリアについて理解できるようになる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表
5	自分の強みを発見し、認識できるようになる	【強みの発見】人生曲線の説明 【演習】人生曲線の記入と強みの理解
6	自己分析し、自分史をまとめることができるようになる	【自己分析】自分史/長所の確認 【演習】自分史の作成、分析
7	他人の紹介ができるようになる	【他己紹介】ジョハリの窓/友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、発表（2分/人）
8	自分の特性を知ることができる	【コンピテンシー】コンピテンシーとは 【演習】自身のコンピテンシーについて記入
9	自己PR書の作成ができるようになる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	筆記試験について理解できるようになる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
11	インターンシップについて理解することができるようになる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップを実施している企業の検索
12	与えられた課題についてグループディスカッションができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
13	チームで発表ができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	前期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【前期試験フィードバック】試験のフィードバック、前期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティング基礎 I	(NKT16Q)	
講義名 (コード)	マーケティング基礎 I A	(NKT16QA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日々の生活や行動からマーケティングを考えてみる そしてマーケティングの仕組みを理解し活動意義を探求する
全体の内容と概要	マーケティング的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げ 理解を深めるために、ケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	マーケティング活動について理解できる	マーケティングとはどのような活動なのか、自分の言葉で考えてみる
2	マーケティングの歴史を理解できる	マーケティングはいつからあるのか。 またどこでどのようにして誕生したのか
3	マーケティングの概念と仕組みを理解できる	マーケティングを構成する要素である「概念」と「仕組み」について考察する
4	マーケティング・コンセプトを理解できる	マーケティングのコンセプトは時代とともに変化してきている。 マーケティングを時代背景とともに考えてみる。
5	①生産指向を理解できる	企業の生産志向とはなにか。時代を遡って考えてみる
6	〃	ケーススタディ
7	②販売指向を理解できる	企業の販売指向とはなにか。様々な販促を通して考えてみる
8	〃	ケーススタディ
9	③顧客指向を理解できる	企業の顧客指向とは何か。販売指向との違いを考えてみる
10	〃	ケーススタディ
11	④社会指向を理解できる	企業の社会指向とはなにか。SDG s をテーマに考えてみる
12	〃	ケーススタディ
13	SDG s の具体的なアクションを考 えることができる	ワークショップ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング基礎 I	(NKT16S)
講義名 (コード)	Webマーケティング基礎 I A	(NKT16SA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎概念を理解し、Canvaを用いてターゲットに刺さるSNS投稿・広告・販促物等を、一貫性のあるデザインで作成できる。
全体の内容と概要	認知から成約までを繋ぐ「Web上の導線設計」を体系的に学び、ビジネス現場で即戦力となる一貫通貫の設計・制作スキルを習得します。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方Canvaの基本操作（ログイン、写真の配置、文字入力）を体験。
2	Canvaによる自己紹介ページ制作	自分の特長や強みを視覚化し、自己紹介シートを作成する。
3	Canvaの基本操作(1)	テンプレートの選び方、基本ツールの使い方等
4	Canvaの基本操作(2)	写真の加工、背景削除、図形の活用。
5	Web上の導線設計（全体像）を学ぶ	集客から成約までの「地図」を描く。 SNS・広告・HP・チラシがそれぞれどのフェーズで機能するか、全体の流れ（カスタマージャーニー）を理解する。
6	SNS投稿のデザイン(1)	Instagram投稿・ストーリー作成。 スマホで「目が止まる」フックの作り方。
7	SNS投稿のデザイン(2)	複数枚投稿のストーリーテリング。 保存される「役に立つ」コンテンツ制作。
8	Web広告の仕組みと配信設計	広告のアルゴリズムとターゲティングの仕組みを理解し、目的に応じた「配信設計（誰に・どこで）」を立案できる。
9	公式LINEとリッチメニュー	Canvaでのリッチメニュー制作と設置イメージ。
10	リアル媒体からWebへの誘導	ポスター制作。紙面での視線誘導とキャッチコピー、QRコードの効果的な配置。
11	集客戦略の立案（コンセプトワーク）	決めたテーマに対し、「誰に・どの媒体で・どうやって」集客するか、導線設計図を完成させる。必要な制作物（SNS広告、チラシ、バナー等）のリストアップ。
12	制作(1)：集客パーツの制作	導線の入り口となる制作物の作成。SNS投稿用クリエイティブ、WEB広告バナー、QRコード付きポスターなど、Canvaを用いて一気通貫のデザインを行う。
13	制作(2)：成約パーツの制作	集客した後に見せる詳細情報（公式LINEリッチメニューやチラシの裏面など）の制作。
14	最終ブラッシュアップと発表準備	全ての制作物を並べ、導線がスムーズに繋がっているかセルフチェック。 プレゼン資料の作成（ターゲット、狙い、期待する効果の言語化）。
15	試験・成果発表	全制作物を発表。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング基礎 I	(NKT16S)
講義名 (コード)	Webマーケティング基礎 I D	(NKT16SD)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数 30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるため基本的な手法を理解し、実践する。
全体の内容と概要	普段目にすることの多いDTP、WEB広告やSNS投稿画像などをCANVAを使用して制作し、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	課外授業・体育祭・卒業発表に合わせたポスター等の作成
履修上の注意事項等	Canvaアカウントログインのため毎回各自のスマホを使用します。課題の提出はTeamsを使用しますのでID・パスワードの管理をお願いします。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	制作事例の紹介、授業の進め方とWEBマーケティング・デザインの基本的な説明
2	オリエンテーション	Canvaのアカウント取得、デザインの共有・提出方法
3	Canvaの基礎知識を習得	適切なテンプレート・ドキュメントサイズ・素材を選ぶ
4	Canvaの基礎知識を習得	適切なテンプレート・ドキュメントサイズ・素材を選ぶ
5	グラフィックの活用を習得	図形・イラストの検索、挿入、変更。外部素材の活用
6	グラフィックの活用を習得	図形・イラストの検索、挿入、変更。外部素材の活用
7	写真の活用を習得	画像の挿入と加工、効果
8	写真の活用を習得	フレーム、モックアップでの加工、効果
9	デザインの配色を習得	カラー選びと登録 CMYKとRGB
10	文字のデザインを習得	テキスト素材の検索と挿入、編集とアレンジ
11	トータルデザインの習得	テンプレートからテキスト・素材を編集し、オリジナルデザインを完成させる
12	トータルデザインの習得	テンプレートからテキスト・素材を編集し、オリジナルデザインを完成させる
13	前期期末テスト	成果物制作
14	前期期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策 I	(NKT16U)	
講義名 (コード)	検定対策 I B	(NKT16UB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	柄澤 郁子	時間数	30
成績評価教員	柄澤 郁子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、Wordで基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成して基本操作を身につける 検定試験を目標に操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 後期からは資格試験の練習に入りますので、前期で基本的な操作を身につけてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを理解する	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	Wordを起動して操作・保存・終了 文字入力（漢字以外）ができる	Wordの基礎（起動→画面構成確認→保存） タイピング練習 文字の入力（ひらがな・カタカナ・アルファベット・記号）
3	文字入力（漢字変換）を覚える ファンクションキー・IMEをつかえる	文字入力 漢字変換・ファンクションキー変換・IMEの使用 タイピング練習
4	短文の文章を入力して 効率的な変換を覚える	短文を入力して効率的な変換を覚える
5	長文の文章を入力して ページ設定を覚える	長文を入力してページ設定を覚える
6	ビジネス文書の作成 社内文書の配置を覚える	文書作成 ご案内（社内文書）作成 文章入力→配置→保存まで
7	編集機能・書式設定ができる	編集機能（コピー・切り取り・貼り付け）の活用 書式設定（フォント・段落グループボタン）の利用
8	表の入った文書を作成できる 表の編集ができる	表の作成 表の入った文書の作成・ページ設定
9	ビジネス文書の作成 社外文書の配置を覚える	文書作成 社外文書（あいさつ文の利用）
10	オブジェクトを操作できる	画像・テキストボックスの入った文書作成 （ワードアート・画像・テキストボックス挿入）
11	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
12	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
13	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスター Word & Excel2021 留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）・レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報

科目名(コード)	スピーチ&プレゼンテーション I	(NKT17A)	
講義名(コード)	スピーチ&プレゼンテーション I B	(NKT17AB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹下 芽衣子	時間数	30
成績評価教員	竹下 芽衣子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表することができる。見ている人がわかりやすい説明とビジュアルツールを作成しプレゼンテーションを行い、将来の就職の場で役立つ
全体の内容と概要	作成したPPTを使用し何度もプレゼンテーション練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介クラスの雰囲気づくり プレゼンテーションとは何かがわかる	オリエンテーション自己紹介とクラスのルールなど説明 プレゼンテーションと何か、どんな場面でどのように使用するのか 例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ
2	プレゼンテーションをする前の 準備の方法がわかる	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ まずは短いスピーチを作成する
3	人前で簡単なスピーチが できるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチを作成する
4	人前でスピーチができるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチをクラスの中で発表する
5	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる
6	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる
7	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる	気になるニュースについて自分の意見をまとめたスピーチを行う
8	分かりやすい発表説明文を作成できる	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する
9	分かりやすい発表説明文を作成できる	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する
10	写真を使った発表を行うことができる	写真を見せながら短い発表を行う、クラスメートに評価をもらう
11	1つのテーマを発表し仲間とディスカッションできる	自分の興味のある分野について調べ 現状・問題の原因についてまとめる
12	1つのテーマを発表し仲間とディスカッションできる	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくまとめる 自分の意見を交えた問題の解決法を考える
13	1つのテーマを発表し仲間とディスカッションできる	課題についての発表練習を行う
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語 I	(NKT17G)
講義名 (コード)	ビジネス日本語 I A	(NKT17GA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	塚川 剛	時間数 30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期は、テキスト第1課から第4課（前半部分）を学ぶ
全体の内容と概要	テキストの内容（基本表現、BIZマナー）をしっかり把握し、学生が将来遭遇する就労場面に応用できるようにする。JLPTのN3合格を支援する。
授業時間外の学修	バイト先での経験談、学んだこと、失敗したことなどを発表してもらい、学生同士で共有し、相互に参考にする。
履修上の注意事項等	テキスト以外の就労場面も希望を聞きながら取り入れる。別冊のCDや単語帳も適宜使用する。JLPT過去問の中でビジネス日本語関係に挑戦する。ビジネスコラム欄を重視する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介ができる。バイトを見つける。面接の準備ができる。	オリエンテーション、アンケート調査、アルバイトの探し方とハロワの活用紹介、上田市と長野県の紹介、自己紹介、テキスト紹介など
2	第1課（前半）を理解する	自己紹介ができる。
3	第1課（後半）を理解する	名刺交換が正しくできる。
4	第2課（前半）を理解する	あいさつができる。
5	第2課（後半）を理解する	正しいおじぎができる。
6	第3課（前半）を理解する	電話の正しい応対ができる。
7	第3課（後半）を理解する	電話のルールが理解できる。
8	第4課（前半）を理解する	注意をするについて理解できる。
9	第4課（後半）を理解する	注意を受けるについて理解できる。
10	第1-4課全体を復習する	ハロワを活用できる。募集している内容が理解できる。
11	第1-4課全体を復習する	面接で正しい応答ができる。合格できる秘訣が理解できる。
12	第1-4課全体を復習する	アルバイト先、就労先で学習した内容を活用できる。
13	第1-4課全体を復習する	自分の将来の希望や夢を語ることができる。
14	前期試験の準備をする。	前期で学んだ内容の練習問題で合格点が取れる。
15	前期試験を概略できる。	理解不足、間違えた個所が理解できる。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
参考文献・資料等	講師作成のPP資料、政府の外国人政策の最新情報の提示。
備考	名刺の作成なども取り入れる。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーション I	(NKT17I)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーション I A	(NKT17IA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース/ 観光ホスピタリティーコース/Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	榊原 倫代	時間数 30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い返しをすることで コミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向を知る	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	文章のしくみが理解できる	読解：文章全体の意味をとらえる練習をする 聴解：聴解に必要な「課題理解・ポイント理解・概要理解」の形式を知る
3	対比のしくみが理解できる	読解：ほかのものと比べながら実践問題を解く練習をする 聴解：聴解に必要な「即時応答・総理解」の形式を知る
4	言い換えの仕組みが理解できる	読解：ほかの言葉で言い換える問題を読み解く練習をする 聴解：似ている音、音の変化や縮約形などを聞き分ける練習をする
5	比喩の表現が理解できる	読解：比喩が使われている文章を読み解く練習をする 聴解：「即時応答」のスキルを学ぶ
6	試験の傾向がわかる	模擬試験
7	試験の傾向がわかる	模擬試験 F B
8	疑問提示文について理解できる	読解：なぜ、どうして、どのようになどの疑問文を使って話題を提示する練習 聴解：即時応答—最初の文を理解する
9	筆者の主張表現が理解できる	読解：筆者が自分の意見であることを示す表現を読み解く練習をする 聴解：即時応答—返事の文を考える
10	問いを解く技術を身につけることができる	読解：文章の細かい部分を正確に読み取る練習をする 聴解：「課題理解」のスキルを学ぶ
11	『指示語』が何を指しているかを理解できる	読解：「これ・それ・あれ」などの指示語を読み取る練習をする 聴解：課題理解—すべきことを理解する
12	「だれが」「何が」「何を」などを問う形が理解できる	読解：「だれが・何が・何を」などを読み取る練習をする 聴解：課題理解—最初にすることを考える
13	前期のまとめと解説	試験前のまとめ
14	前期のまとめと解説	期末試験
15	前期のまとめと解説	期末試験のフィードバックを通じて前期勉強したことの確認をする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書	新完全マスター読解N2	新完全マスター聴解N2
参考文献・資料等		
備考		

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策 I	(NKT17K)
講義名 (コード)	日本語資格対策 I A	(NKT17KA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース/ 観光ホスピタリティーコース/Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	田中 清夫	時間数 30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向がわかる	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	自分の困った状況や気持ちを説明できる・人を励ますことができる	文法（ばかりに、ものか、というものだ） 語彙（第1回）
3	自分の状況や決意したことを話せる①	文法（ばこと、ないことはない、わけにはいかない） 語彙（第2回）
4	自分の状況や決意したことを話せる②	文法（のみ、まとめ問題） 語彙（第3回）
5	これまでの経緯や状況の説明ができる①	文法（からみると、一方で、ことから） 語彙（第4回）
6	これまでの経緯や状況の説明ができる②	文法（のみならず、といった、にしたがって） 語彙（第5回）
7	試験の傾向を知る	模擬試験
8	試験の傾向を知る	模擬試験、フィードバック
9	試験の傾向を知る	フィードバック
10	レポートや論説文の説明ができる①	文法（得る、に反して、に関して） 語彙（第6回）
11	レポートや論説文の説明ができる②	文法（反面、理論上は、つつある） 語彙（第7回）
12	レポートや論説文の説明ができる③	文法（に限らず、まとめの問題） 語彙（第8回）
13	ビジネスの場面で社外の人とのやりとりができる	文法（敬語、につきましては、まとめ問題） 語彙（第9回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY! 日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスマナー I	(NKT17M)
講義名 (コード)	ビジネスマナー I A	(NKT17MA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	久保田 ゆかり	時間数 30
成績評価教員	久保田 ゆかり	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	社会人としての姿勢と、「働く」うえでの基本的なマナーの取得を目指す。加えて、他者との円滑なコミュニケーションを図れることを目的とする。
全体の内容と概要	社会におけるさまざまな場面に応じたマナーを実例を基に学び、授業のなかで実践する。
授業時間外の学修	学んだことを日常生活のなかで意識して実践し、身に付ける。
履修上の注意事項等	講義による知識の習得と、グループワークや演習を中心に進める

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上で期末試験の受験対象者とし、各講義の課題提出及び授業態度・意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習の意図が理解できる	講義・本授業の意図と習得する知識 日本で働く心構えと文化の違い 演習・クイズ、グループワーク、自己紹介
2	日本の社会常識① 社会のルールが理解できる	講義・社内での付き合い方（同僚・上司） 就業時間外の付き合い方 演習・クイズ、グループワーク、発表
3	日本の社会常識② 社会のルールが理解できる	講義・チームワークとは 社内外の関係者との協働 演習・クイズ、グループワーク、ケーススタディ
4	日本の社会常識③ 社会のルールが理解できる	講義・接し方と話し方、会話の重要性、自己開示と他者理解 演習・クイズ、グループワーク、発表
5	ビジネスルール① ビジネス上のマナーが理解できる	講義・日本における時間の概念（アポイント・就業時間） 演習・クイズ、グループワーク、ケーススタディ
6	ビジネスルール② ビジネス上のマナーが理解できる	講義・挨拶の重要性 周囲と接する態度 身だしなみ 演習・クイズ、グループワーク、発表
7	ビジネスルール③ ビジネス上のマナーが理解できる	講義・報告連絡相談の必要性 PDCAサイクル 演習・クイズ、グループワーク、ケーススタディ
8	ビジネスルール④ ビジネス上のマナーが理解できる	講義・情報管理とコンプライアンス ハラスメントとは 演習・クイズ、グループワーク、発表
9	社内のマナー① 社内でのマナーが理解できる	講義・さまざまなシーンにおける基本的行動パターン 演習・クイズ、グループワーク、ケーススタディ
10	社内のマナー② 社内でのマナーが理解できる	講義・注意と指導を受けた時の対応 退社時や休暇取得時の対応 演習・クイズ、グループワーク、発表
11	社内のマナー③ 社内でのマナーが理解できる	講義・冠婚葬祭のマナー 日本文化における贈答の考え方 演習・クイズ、グループワーク、ケーススタディ
12	社内のマナー④ 社内でのマナーが理解できる	講義・飲食や宴席でのマナー 嗜好に関するマナー 演習・クイズ、グループワーク、発表
13	一般的なビジネスマナーを 復習し実践できる	今まで学んできた内容を再確認し共有する
14	前期期末試験	前期授業で学んだ内容の確認テスト
15	フィードバック・前期まとめ	テスト結果フィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『改訂版 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』 (日本能率協会マネジメントセンター発行)
参考文献・資料等	なし
備考	必要に応じて資料を用意する